

年 月 日

一般社団法人 20年先を見据えた日本の高断熱
住宅研究会(HEAT20) 理事長 坂本 雄三 殿

HEAT20 住宅水準 「住宅システム認証」 申請書

申請者
所属
所属住所

HEAT20	会員区分	<input type="checkbox"/> 会員	<input type="checkbox"/> 非会員
会員情報	会員種別:	会員名:	

標記の認証を受けたいので、関係書類を添えて申請いたします。
この申請書及び付属資料の記載事項は、事実と相違ありません。

記

該当箇所の方にチェックマーク☑を入れて下さい。

1 住宅システムの名称	〇〇工務店 プレミアム断熱住宅システム			
2 住宅システムの概要と特徴	<p>1)外皮の熱性能 G3水準の高断熱住宅である。断熱材は・・・が主要材料なので、気密性・防露性にも優れている。窓は3層ガラス・・・サッシを使用する。日射遮蔽は庇とルーバーで行う。通風にも配慮して、開口部と廊下の位置を定めている。</p> <p>2)暖冷房・換気設備の特徴 暖冷房は家庭用エアコンを熱源とする全館空調システム(・・・システム)である。全熱交換換気と空気清浄機もシステムに内包されているので、省エネで且つ健康的である。</p>			
3 構造の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 木造軸組工法 <input type="checkbox"/> 枠組壁工法 <input type="checkbox"/> その他 ()			
4 認証を申請する地域 (省エネ基準の地域区分、県名、市区町村名を適宜使用して、もれがないように申請する)	東京都23区、神奈川県川崎市、神奈川県横浜市			
5 認証を申請する水準 (住宅シナリオ)	<input type="checkbox"/> G1 <input type="checkbox"/> G2 <input checked="" type="checkbox"/> G3			
6 評価計算の方法と指標の計算結果	使用したルート	<input type="checkbox"/> ルート1	<input checked="" type="checkbox"/> ルート2 (G1の認証には使えない)	
	気象データの地点名	練馬	該当地域 6地域	
	住宅シナリオ	暖房期最低室温(OT)	住宅シナリオ・NEB	概ね13℃を下回らない
			最低OTの計算値	13.2℃
	暖房負荷削減率	住宅シナリオ・EB	約55%削減	
		平成28年基準暖房負荷 ^{※1} (ルート2)	10.52 GJ/年	
		申請住宅システムの暖房負荷 ^{※2}	4.21 GJ/年	
暖房負荷削減率の計算値				
暖房モードについて:※1では該当地域に応じた暖房モードが設定されている。※2では、ルート1の場合は※1と同じモードだが、ルート2ではどの地域でも全館連続暖房モードが設定されている。				

◆担当者の連絡先等

担当者氏名	
所属/部署名/役職名	
住所	
電話	E-mail

◆HEAT20ホームページ掲載

公開 非公開

※当社HPへの掲載についての確認です

付属資料

(1) 評価計算で用いた部位の仕様

1) 部位（開口部以外）の熱貫流と断熱仕様（申請しない部位については記入しない）

部位	U:熱貫流率 [W/(m ² ·K)]	断熱工法	断熱材の種類と厚さ
屋根	X. XX以下	外張り断熱	XPS3種b A ○○mm以上
天井	X. XX以下	吹込み断熱	セルローズファイバー ○○mm以上
外壁	X. XX以下	充填断熱+付加断熱	GWHG32-36 ○○mm+GWHG16-38 ○○mm以上
床	X. XX以下	根太間+大引き間	EPS1号 2層(○○mm+○○mm以上)
外気に接する床	X. XX以下	根太間+梁間	RWHA ○○mm以上×2層
基礎、土間床	X. XX以下	吹付け工法	吹付け硬質ウレタンフォーム種1H ○○mm以上

2) 開口部の熱貫流率・日射熱取得率と仕様

種類	方位	U:熱貫流率 [W/(m ² ·K)]	η:日射熱 取得率 [比率]	サッシの仕様	ガラスの仕様	日よけの有無
窓	北	X. XX以下	X. XX以上	樹脂	3層複層Low-Eガラス1枚日射取得型アルゴンガス入り空気層10mm	無
	南	X. XX以下	X. XX以上	樹脂	3層複層Low-Eガラス2枚日射取得型アルゴンガス入り空気層13mm	無
	東	X. XX以下	X. XX以上	樹脂と金属の複合材料	2層複層Low-Eガラス日射遮蔽型アルゴンガス入り空気層14mm	無
	西	X. XX以下	X. XX以上	樹脂と金属の複合材料	2層複層Low-Eガラス日射遮蔽型空気層10mm	有 オーニング
ドア	X. XX以下		金属製高断熱フラッシュ構造	ガラス無し		

3) 外皮平均熱貫流率

UA:外皮平均熱貫流率 [W/(m ² ·K)]	X. XX以下
--	---------

(2) 部位の追加仕様と熱性能（評価計算で用いた仕様以外に申請する仕様がある場合は、以下に記入する。）

※注 追加仕様では、U値が評価計算で使用した仕様のU値以下であること。また、η値はその仕様のη値以上であること。

1) 部位（開口部以外）の熱貫流と断熱仕様

部位	記号	U:熱貫流率 [W/(m ² ·K)]	断熱工法	断熱材の種類と厚さ
屋根	R2	X. XX以下	外張り断熱	PF1種2号 ○○mm以上
外壁	W2	X. XX以下	充填断熱+付加断熱	GWHG32-36 ○○mm+XPS3種 ○○mm以上
外壁	W3	X. XX以下	充填断熱+付加断熱	GWHG32-36 ○○mm+EPS1号 ○○mm以上
床	F2	X. XX以下	根太間+大引き間	XPS3号 2層(○○mm+○○mm以上)

2) 開口部の熱貫流率・日射熱取得率と仕様

種類	記号	U:熱貫流率 [W/(m ² ·K)]	η:日射熱 取得率 [比率]	サッシの仕様	ガラスの仕様	日よけの有無
窓	G2	X. XX以下	X. XX以上	樹脂	3層複層Low-Eガラス1枚日射取得型アルゴンガス入り空気層10mm	外ブラインド
	G3	X. XX以下	X. XX以上	樹脂	3層複層Low-Eガラス2枚日射取得型アルゴンガス入り空気層13mm	外ブラインド
	G4	X. XX以下	X. XX以上	樹脂と金属の複合材料	2層複層Low-Eガラス日射遮蔽型アルゴンガス入り空気層14mm	外ブラインド
ドア	D2	X. XX以下		金属製高断熱フラッシュ構造	ガラス有り	

(3) 気密性の確保と防露仕様について

- ・外壁、屋根、天井においては、防湿気密シートを用いて気密化と冬期の結露防止を・・・。
- ・最下階の床や間仕切り壁の上部では、通気止めで・・・。
- ・外壁や屋根では、外装材の室内側に通気層を設け、・・・。
- ・外側断熱材であるXPSは構造用合板の温度上昇を抑制し、夏型結露の防止に・・・。
- ・全棟、気密測定を行い、・・・。

(4) 遮熱計画について

- ・窓にはすべて何らかの日射遮蔽措置（ロールブラインドもしくは縦ルーバー）を・・・。
- ・冷房期の平均日射熱取得率 η_{AC} は1.8であり、6地域の省エネ基準2.8より、・・・。
- ・屋根と外壁の通気層の風量を確保するために、・・・。

(5) 通風計画について

- ・通風性を確保するために、各室には二つ以上の開口部を・・・。
- ・建設地における夏の卓越風向を調査し、・・・。
- ・風がないことも考慮し、居間の天井には天井扇を・・・。

(6) 暖冷房設備について

- ・暖冷房の熱源はエアコンとし、全館空調システムを・・・。
- ・エアコンはXX社製の ○○kW 以上のものを2台、XXに・・・。
- ・空調空気の循環のために ○○W のファンを ○○台 を・・・。

(7) 換気設備について

- ・全般換気は1種換気とし、換気回数は 0.5回/h ・・・。
- ・水回りの局所換気は3種換気とし、総換気量は ○○ ・・・。
- ・省エネルギーのために、全熱交換換気装置（顕熱交換効率 ○○\% 、潜熱交換効率 ○○\% ）を・・・。